

城坤コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 5 年 11 月 27 日（月） 午前 10 時 00 分～12 時 00 分

場 所：城坤コミュニティセンター

参加者：25 名

担当者：市長、地域担当職員 井上（税務課）、満尾（危機管理課）、西山（下水道課）、塩田（広聴広報課）、中原（広聴広報課）

1. あいさつ

（市長）

本日は皆さんの忌憚のないご意見ご質問をいただき、元気で住みやすいまちづくりにしっかりと取り組むたいと考えているので、よろしく願います。

冒頭に私が最近嬉しかったことをお話させていただく。

まず、今年の 7 月にドイツのヴィリッヒ市と姉妹都市提携をしたこと。デュッセルドルフ空港近くの 5 万 5000 人の都市で日本企業が 34 社あり、グローバル社会を築く上で、ヨーロッパのちょうど真ん中にあるヴィリッヒ市と姉妹都市となれたことはよかったと思っている。34 社の日本企業にとっては、ヨーロッパの拠点になっている。10 月にはドイツのヴルフ前大統領が丸亀に來られて、丸亀城や塩屋別院に行ってもらえたことも嬉しかった。

もう 1 つは、今年の夏に日経ビジネス総合研究所が発表した、住みやすいまちランキングにおいて丸亀市が全国 19 位であったこと。中国四国地区では断トツのナンバーワン。

1 位は東京都武蔵野市。2 位は千代田区。経済が豊かな大都市が上位を占めている中に、地方の丸亀市がポツンと入っていた。内容については、気候が穏やか、自然災害が少ない、この 2 項目が高得点であった。次に、保育所、幼稚園、こども園が充実しているなど、子育て関連の項目が高い評価であった。その他には、介護サービスを受けやすい、医療が充実していること。そして、自然環境が豊か、公園が多い、まちが静か、まちの歴史伝統などに関わる文化資源が豊富。これらが点数の高い項目であった。

それからもう 1 つだけ嬉しかったことは、持続可能な観光地を表彰しているグリーンディステーションというオランダの団体により、丸亀市うちわの伝統を継承する取り組みが世界百選に選ばれたこと。ニュースや新聞にも取り上げられ、嬉しく思っている。うちわは丸亀市にとって伝統工芸品であり、長く伝えていくために伝統工芸士を育成するマイスター制度をつくっている。これを数十年前からずっと続けており、現在 31 名いる。そのような取り組みが世界百選に選ばれて大変嬉しく思っている。

2. 第 1 部 コミュニティ活動の紹介・意見交換会

（会長）

市長をはじめ、お忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。

最初に城坤コミュニティの紹介を簡単にさせていただく。

今回テーマにした災害という観点でお話すると、城坤地区には金倉川両岸に中津町と金倉町、西汐川の北地域には前塩屋町と塩屋町、西汐川の南地域には今津町、津森町、新田町、田村町北部がある。川とともに生活している地域ということで、今日は水害を中心に話をしたい。

また、80歳以上の方が1,360人で人口の約10%、児童数は約180人、小学生が約680人である。コミュニティは、30団体、6部会で構成されている。代議員数190人、役員22人で会長1人、副会長は男女2人ずつの4人、会計監査、事務局という体制でやっている。コミュニティ活動については、生涯学習グループが19、その他のクラブサークル・教室などで14。そういった人たちが城坤コミュニティは運営・活動をやっている。

まちづくりの基本方針は6項目プラス1つ。資料に書いてあるとおりなので、また読んでいただきたい(①情報を発信するまちづくり(総務部会)、②安全安心に暮らせるまちづくり(環境生活部会)、③子供の笑顔あふれるまちづくり(健全育成部会)、④心豊かで健やかな地域福祉のまち(福祉保健部会)、⑤スポーツを通じ健康なまちづくり(体育部会)、⑥地域の特性や文化活動を生かしたまちづくり(文化部会)、⑦秋まつりなどコミュニティ全体の活動(特別委員会))。

最後に城坤地区の課題について5つにまとめた。

1つ目はDXによる効率化を図ろうとしていること。市でもやっているSNSによる情報発信や事務処理のICT化、毎月の広報紙発行。こういったものでコミュニティを効率よく運営しようと取り組んでいる。2つ目は高齢化対策。ひとり暮らしの高齢者の見守り活動や定期的な訪問、認知症の方との関わり方、これらについて勉強会も行っている。3つ目の水害対策では、防災減災の取り組みとして自主防災会を中心に防災訓練や研修会活動を強化している。4つ目は自治会加入率の低下対策。城坤地区では造成地が急増しているので、自治会設立の推進活動を行っている。5つ目は児童と地域の繋がりを広げる活動。今年度から地域コーディネーター制度を利用して、城坤小学校との関係強化を図っている。以上、5つを課題として取り組んでいる。

また、市から提示のあったテーマの1つ、地域防災力の向上に焦点合わせて、4つの質問を事前に提出している。

1つ目は「東南海トラフ地震対策の計画と実施時期」について。2つ目は「西汐入川周辺の浸水被害の早急な改善計画」について。具体的な日程が分かれば教えていただきたい。3つ目は「土手の嵩上げ、拡大、排水路改善計画」について。5月の出前講座のときから何か進展があるのかあるのであればそれをお伺いしたい。4つ目は「宅地造成地の道路設置指導」について。これは宅地造成後の道路のことで、古い町並み、特に塩屋地域について道路の拡張計画はあるのか、ないのか。あるなら今後どうしていくのか。塩屋地区でも高齢化が進み人口が減って新しい家が建たない。その1つの大きな問題として、道路が狭いからと塩屋地区の自治会長から指摘されているので、どのような計画があるのか伺いたい。5つ目は事前に伝えてはいなかったが、「自治会」のことについても伺いたい。

時間もあまりないのでテーマに沿って市の方からご回答いただきたい。それに基づき、こちらからまた意見や提案をし、議論を進めていきたいと思う。

(市長)

まず、DX や SNS、ICT についてですが、DX（デジタルトランスフォーメーション）とはデジタル技術を社会に浸透させて、人々の生活をより良いものへと変革することであり、市では行政手続きのオンライン化を中心に、その他 WEB 会議の導入を進めている。

11 月からは、保育所の申し込みがスマホからできるようになった。今までは書類を書いて窓口に出すため、申請時期は窓口が結構混雑していた。これが家や外出先からでも申し込みができるようになった。もちろん窓口まで来て申請書を出していただいても問題ない。私が知っている限り、保育所の電子申請は四国では丸亀が初。このシステムは職員がつくった。それともう 1 つ、市民課の手続きについては、申請書に名前、住所、生年月日等を記入して提出してもらっていたが、12 月からはマイナンバーカードを端末にかざすと、住所、名前、生年月日等が記入された申請書が打ち出されるようになった。もちろん、こちらも今までどおり窓口で記入してもらっても大丈夫である。併せて、スマートフォンからその申請書を事前に作成できるというシステムも市の職員が開発して 12 月から運用を開始する。多くの方が来られる市民課では、デジタル化が着実に進んできている。

一方、コミュニティでの DX 化をどのように進めていくかについては、例えば回覧版をオンライン化してスマホを活用できれば、ものすごく便利になると思う。また、WEB 会議を導入することも可能である。オンライン化や WEB 会議についてはペーパーレス化にも繋がり、色々な意味での利便性の向上になる。しかしながら、コミュニティの一番の目的は人と人との繋がりにあるので、DX 化を進めていきながらも日常的に対面して話をするのが、やはり本来の姿ではないかと思っている。

今お話したことは、年配の方がこれまで関わってこなかったことであることから、そういった方々を対象としたスマホ教室を毎年行っている。それを丁寧に行っていくことで、皆さんがスマホを使えるようになればと考えている。

3. 第 2 部 テーマ選択方式による意見交換

(市長)

南海トラフ地震対策の計画と実施時期について回答させていただく。

皆さんご存知のとおり、南海トラフ地震は 30 年以内の発生確率が 80%とされている。市の取り組みを説明させていただくと、丸亀市職員初動マニュアルや丸亀市業務継続計画を細かく定めている。災害が発生してから約 1 か月間がものすごく重要になるので、職員それぞれに分担された行動をマニュアル化している。概ね 1 か月先まで、非常時の優先業務について項目ごとに時間を明示し、それが実行できるよう訓練も行っている。

次に西汐入川周辺の浸水被害の早急な改善についてお答えする。私が市長になって 2 年半になるが、1 番最初に県知事に陳情・要望をした項目が 5 つある。その 1 つが西汐入川の浸水被害のこと。私は子どもの頃、幸町の聖母幼稚園西側の市営住宅に住んでおり、西汐入川による浸水被害を毎年経験していた。それは今でもはっきりと覚えている。

県からは西汐入川の嵩上げについては一旦完了していると言われたが、毎年異常気象が起きているので、引き続き状況を見ながら嵩上げ工事を行うように変更してほしいと要望した。これはすぐに知事と県議会議長はOKをしてくれた。

その他に重要と考えているのが、この資料の中にも入っている臨時的排水ポンプ施設。西汐入川に南から今津雨水幹線が入っている。そこに大型ポンプをつけて西汐入川に水を入れる。私が市長に就任したときは、10年で工事を2回ないしは3回に分けて行うという計画だったが、それを前倒して1回の工事で行うことを職員に指示し、県にも陳情して了承をいただくことができた。これにより、当初18億円ほどかかる工事費が、1回にすることで13億程度になった。この完成が令和6年末。大型のポンプが全部完成して西汐入川に雨を入れると、大雨により冠水する地区は、今の4分の1から5分の1になるというシミュレーションとなった。

近年の異常気象により、丸亀市でも今まで冠水したことの無い地区が冠水している。市としては総合排水計画を1年間かけて作っており、来年度からはその計画に基づいて取り組んでいく。待ってられないという地区については、すでに取りかかっている次第である。正直に言えば、莫大な費用がかかる。排水路は農業用水路がほとんどであり、南の方が太く北へ行くほど水路は細くなっている。本来、逆にならなければいけないのが現実はそうっており、宅地の増加も重なり南部で冠水が発生している。そのような状態をどのように直していくか、下水道も関係しているもので、それも併せて、前倒しで取り組んでいこうと思っている。

担当課からもう少し詳しく説明させていただく。

(満尾課長)

総合排水計画は、来年3月の完成を目指して作成しているところである。内容としては、雨量や河川整備計画等の基礎調査をまず行い、その調査を踏まえながら、浸水被害の実績を分析した情報をもとに、重点地区と一般地区を定めて対応する。重点地区にも様々な排水対策手法がある。例えば排水路の改修や整備、ため池の利用、田んぼダム、排水ポンプの設置などを組み合わせながらの排水対策を検討している。計画については、短期、中期、長期というスケジュールで作成している。

来年度以降はその計画に基づき、排水対策関係課である下水道課、建設課、農林水産課が事業を実施し、皆さんの安全安心を確保したいと思っている。出来上がったなら市のホームページで公開するので、確認いただきたい。

(市長)

城坤地区から少し離れているが、土器川河口では水量が1.3倍になる引堤工事を国にやっていただいております、これに伴う県道33号線の蓬萊橋の架替工事も昨年度決定している。土器川河口で今の1.3倍の水が流れると大雨に対しても大分安全になる。

その他に、蓬萊橋から土器線の交差点と宇多津駅へ行く道がいつも混んでいるが、その道路の4車線化も県と国のほうで決まっている。これらは全部最初に話した5つの要望の中に入っており、全部実現して地元説明も終わっている。

安心安全な河川の陳情としては、土器川と金倉川と大東川の3つの川で要望を出しているが、西汐入川もこれに付随して必ず話が出てくるので、皆さんの意見を聞きながら県や国には随時陳

情していきたいと考えている。

(コミュニティ 1)

今の説明で質問等があったらお願いします。

(コミュニティ 2)

今年の 4 月、私が住む新田青葉団地入口の嵩上げを市にさせていただき、その後すぐさまゲリラ豪雨があったが被害はなかった。また、新田地区の水路の拡幅工事も 10 月末で終わっている。さらに、宮野病院前の農業水路についてはバイパス工事が行われている。3 つ大きな工事が進み、来年は水害による被害が減少するのではないかと考えている。特に建設課、農林水産課にはお礼を申し上げる。

2 点目については、通学路の改善について。私はゆめタウン前の城坤小学校南の押しボタン信号機のところで、12 年くらい朝の立哨を行っている。昨年からは集団の登下校がなく、小学 1 年生だけで登下校していることがある。今年の 10 月、押しボタン信号が赤信号にも関わらず 1 年生が飛び出したことがあり、大声を出して止めた。小学校にも注意指導をお願いしたところ、その後は改善された。近くには宮野病院、さらにその横に保育園がある。そのため、朝の通学時間帯には多くの送迎車や通院のための車が行き来している。そこで、押しボタン信号機から宮野病院までにスクールゾーンの表示をお願いしたい。距離的な問題もあると思うが、スクールゾーンの表示をしてほしい。

3 点目は自治会活動について。今年 4 月に自治会総会で自治会の中の私道について、交通安全対策ということで問題提起して具体的な取り組みを行っていたが、8 月になって団地の自治会の 1 人から掲示板を立てることに異議が出た。結局 1 人でも反対すれば撤回すべきとなり、臨時の自治会総会を開催した。建設課にも異議の文書が提出されている。自治会からの予算要求、交付金申請について一定数の同意は必要であると思うが、全員の同意書まで取る必要はないと思う。補助金申請については全員の同意を取ることが難しく、さらには誹謗中傷までされている。

市役所の中に自治会専門の相談窓口を設置していただきたい。要望文書を用意しているので、後ほど文書での回答をお願いします。

(市長)

日々立哨等していただいていることには頭が下がる。いただいた質問は前向きに取り組んでいこうと思うので、よろしくお願いします。

(コミュニティ 3)

南海トラフ地震についてお願いがある。今までに経験のない地震が起きた場合、塩屋町では津波被害が想定されている。蓬萊町のゴルフ場と昭和町の水域は、今治造船が購入して埋め立てしていただいたおかげで、北側は浸水区域から外れて心配なくなったが、金倉川からの津波侵入が想定される。金倉川の堤防がどのような具合なのか分からないが、嵩上げをして津波の侵入対策をお願いしたい。

(満尾課長)

南海トラフ地震は、今後 30 年以内に 70% から 80% の確率で起こるとされ、沿岸部は津波による浸水が想定されている。特に塩屋町は危惧されていると思うが、市の防災マップがあるので、

浸水区域に入っている方はまずは自分の身を守るため、南の区域外に逃げることを考えていただければと思う。南海トラフの津波は、県の想定では1時間ほどの猶予があると言われており、事前に準備をし、早めに逃げていただければと思う。また、金倉川の浸水対策については県の対応となるので、ご意見を県に伝えさせていただく。

(市長)

浸水対策については、県や国に進言していこうと思う。ただし、四国では高知県や徳島県の被害が大きいので、こちらから太平洋側の自治体を助けに行くようなところまで万全にしておきたいと思っている。市民球場を造るときに国の防災交付金を使った。上物だけで約40億かかったが、その9割は国が出してくれている。その代わりに、南海トラフ地震等の大災害が起こった時には国へ全て明け渡し、物資人員の輸送拠点として国が使用することになる。トイレや防災備品庫があり、球場の柱もしっかりとっていて、かなりの地震に耐えられるようになっている。球場では、そのようなことも想定していることを知っておいていただきたい。

(コミュニティ 2)

登下校の関係で、城坤小学校の運動場が今工事中になっている。小学校の南側の道は非常に狭く、抜け道として使われ車の通行量も多い。学校の先生等が見回りを行っているが、ボランティアだけでは児童の安全を守れないところもあり、長期間工事が行われると思うので、朝の時間帯は交通安全対策としてガードマンを配置するなど市のほうでお願いしたい。

(市長)

教育委員会に話をしてみたいと思う。

(コミュニティ 4)

2点ほど検討していただきたいことがある。

1つ目は、天満町の土地のこと。私の家は土地が天満町の1番低いところにある。昔は床下の浸水被害が多かった土地で、その横には市の土地がある。5月25日、市に災害についての質問書を提出しており、その中にもありますが、市の土地を水害対策に何か役立てていただけないものか、検討していただきたい。せっかく市の土地があるので売るのではなく、例えば貯水池にしてそれを下水道に流すなど、色々な方法を考えていただきたい。

もう1点は雨水の排水について。以前市から、地区によって雨水を下水道に流せないところと流せるところがあると聞いている。天満町二丁目は多度津街道の北側にあり、雨水を下水道に流せると聞いている。一丁目は土地の低いところが全然流せず、水が全部西汐入川の方へ入っていくようになっており、川の水かさが上がれば逆流してくるような状況が出てくると思う。毎年大雨の時期は心配で、安心できない。一丁目は雨水を流せないということだが、流せるようなやり替え工事ができるのかどうか、多分できない気がするが市民としては不公平感を感じる。

丸亀全体で下水道に雨水が流せるような大きな対策が必要ではないかと考えている。東京は非常に大きな貯水施設を地下に造っている。今からの時代、必要になってくると思うので検討していただきたい。

(市長)

市の土地の件には頭を悩ましているが、なにか有効利用できたらと考えている。

(下水道課)

天満町の市有地があるところの水害については、平成 29 年に浸水被害があった後に臨時の排水ポンプを付けた。市有地にも一定の貯水機能があるので、前回の台風くらいであれば、現状水害が発生しないと考えている。また、西側で天満町から水が流れてくるところもあるが、そこも堰をさせていただき、平成 29 年当時の雨程度でしたら貯水しながら排水して水害が起きないような状況にはなっている。土地の貯水機能が重要ということは下水道課の方としては認識している。今後の活用については、そういうことを踏まえて考えていきたいと思っている。

あと、下水道に流せないという話があったが、昭和 30 年ぐらいに下水道を整備したところは合流区域という雨水と生活排水を一緒に流せる区域となっているが、水質に問題があるということで、その後の法律改正により、今から合流区域を増やすことは難しい。ただ、水害対策については汚水と雨水を分けて進めることはできるので、雨水のみで何らかの対策方法を考えていきたいと思っている。

(コミュニティ 4)

あの土地に、コミュニティセンターを建てるという話もあったが、当時からあの土地は低くて何ともならないということで今のこの場所になった。何か対策してくれれば天満の人も納得すると思う。長年ほったらかしになっているので、これは早急をお願いしたい。

(市長)

今言われたことは、私も頭を悩ませている。

(コミュニティ 4)

塩屋保育所をそこに持っていくために市が土地を購入したと私は聞いている。なぜ工事がストップしたのかも分からない。あの土地を活用する対策を考えていただきたい。

(市長)

あの土地が使えないのであればと売却についても話し合いをしたが、やはり土地が低く、何をつくっても地元の皆さんの安心安全が担保できないという説明を聞いた。今回改めてご意見をいただいたので、地元の人にとって安全でありながら何かいい活用方法がないか検討する。ただ結局、あの場所に何かをつくれば、そこが高くなるので周りにもっと水がいくことになる。そこを何とかしないといけない。

(コミュニティ 4)

売却について住民と何回か話し合いをしたが、住民としては納得できない。売ってもらっては困るということになった。ただし、水害対策として排水がきちんとできるのであれば売っていただいても結構だという話も出た。

(下水道課)

あの土地のあたりがちょうど合流区域の境になっており、状況が変われば調査して大きいポンプ付けるようなことも必要だとは認識している。

(コミュニティ 4)

今現在は、あの土地が貯水機能を果たしていると思うが草がぼうぼう。刈っても 2、3 か月したら、また草が生えている。

(コミュニティ 5)

ポンプでくみ上げて西汐入川へ流すわけにはいかないのか。

(下水道課)

ポンプはある。大型のものになると費用も大分かかったりするので十分に検討したい。

(コミュニティ 4)

年に何回か草刈りをしているが、土地の管理費も高いのか。

(市長)

私も 3 反 6 畝の水田を休ませており、草刈りは大変であるが周りに迷惑がかかるのでお金をかけて草刈りをしている。

(コミュニティ 4)

3~4 か月で市の人が見に来てくれていると思うが、今は高くなっている。たぶん天満の人は市に早く草を刈ってほしいとは言っていないと思う。

(市長)

管理や排水をきちんとした上で、有効な方法を考えたい。

(コミュニティ 5)

市が管理している天満池の草も年 2、3 回は刈ってほしい。電柱に巻きついて伸びている。

(市長)

それも大事なことである。私も池の草刈りや水路清掃も全部行っているが、10 年経つとどうなるのだろうと思いながら手伝っている。

(コミュニティ 4)

天満池が市の管理になった時に安全対策でフェンスを張ってくれた。これはありがたかったが、草はぼうぼうである。

(市長)

そのことはしっかり前向きに取り組む。

(コミュニティ 6)

先ほど市長は津波が 2 メートルのところまでと言われたが、海拔 2.9 メートルの高さとなる。その高さというのは、中津地域ですと、幸町中津町線が大体 2.3 メートル程度の高さで、そのあたりまで津波が来ると地域の方にそうお伝えしている。

(市長)

すみません。私も 2 メートルとどこかでインプットされていた。

(コミュニティ 6)

排水総合計画は 3 月末に完成し、令和 6 年 4 月以降に順次緊急度の高い順に整備するという考え方でよろしいか。

(市長)

はい。

(コミュニティ 6)

優先順位からいえば新田地区になろうかと思うが、ポンプ場で排水対策を考えており、シミュ

レーションでは4分の1ぐらいまで浸水が減るという話だったと思う。シミュレーションの条件で西汐入川の排水ができたという前提なら、そのようになるかもしれないが、条件設定の仕方では結果が全く変わってしまう。満潮位で西汐入川の上からどんどん水が流れてきても西汐入川が満水だったら、強制排水しても隙間からどんどん入ってきて一か所で回るだけで排水は十分できないと思う。これは5月の出前講座の時にも話させていただき、西汐入川の末端にポンプ場を整備して、強制排水をすることで水位を下げていただきたいという要望をした。ぜひ県にも要望していただきたい。

多度津の桜川も西汐入川と同じようになっているが、河口にポンプ場がある。桜川も県河川なると思うので、西汐入川も同じようにポンプ場設置などの対策をしていただけたら、効果が出ると思う。根本的な対策をぜひ考えていただきたい。市が中心になって動いてくれたら我々はみんなバックアップしていくので、そうなれば新田の浸水もほとんどなくなると思う。

(コミュニティ 4)

西汐入川の水がいつも一定で大雨が来てもどんどん流して、それ以上増えない状況をつくれば水害が起きる可能性が低くなる。

(市長)

10月、11月は、東京で陳情を一生懸命している。今言われたこともは申し訳ないが言っていなかった。

(コミュニティ 6)

海の濁りなどの問題も出てくるのでいろんな協議が必要になってくるかと思うが、その辺はクリアしていただいて、何とか根本的な対策をお願いしたい。費用はかなりかかると思うが要望する。

(市長)

わかりました。

(コミュニティ 6)

避難所の問題について、城坤校区はハザードマップに基づいてこのコミュニティが避難所になっているが、洪水のハザードマップを見ると浸水するようになっている。ここへ逃げてきて浸水していたら、またどこか別のところへ行かなくてはいけない。城坤小学校は条件付で避難所になっており、基本は体育館が避難所になっているが、そこが浸水する場合は校舎2階へ逃げなければいけない。そのとき、校舎に鍵がかかっていたら、命に関わるので器物損害になっても強制的に入らなければいけなくなる。限界があるのはよく分かっているが、そういった問題も踏まえて、いい対策があればと思う。

それともう1点、城坤校区には1万人くらいいるが、その人たちが一斉に押しかけてきたら避難所がいっぱいで入れなくなるので、企業に協力を求めなければいけないと思う。例えば、四国計測やゆめタウンを民間の避難所として使わせてもらうとか、企業と連絡協議会みたいなものをつくって協力してもらうことはできないか。企業の協力も得て、避難所の確保をお願いしたい。

(市長)

まず、企業の力を借りることについては、昨年度四国化成と契約を結んだ。今企業が寄附金と

か色々なことに協力してくれている。避難所の確保の件については相手方の協力が必要だが、行政としても取り組んでいきたい。

城東小学校も土器川の横ではあるが、水が絡む被害だけではないので避難所としている。しかしながら、やはり一番は水が出る被害ほとんどなので、状況把握に努め、色々な対策はきめ細かくやっっていこうと思っている。

(満尾課長)

避難所については、市内 92 か所で約 3 万人が収容できるが、地域によっては偏りもある。民間も活用して参りたいと思っており、今年度はあやめ保育所も一時的避難所ということで協定を結ばせていただいた。様々なやり方で確保して参りたいと思っているのでご理解いただきたい。

(コミュニティ 6)

今の避難所の件なのですが、城坤地区では昨年、城西高校で避難訓練を行った。そのとき誰が一番に来て開設するののかという話がでた。そのやり方について、統一したものをつくっていただかないと、避難所に行っても入れないという問題点が出てくる。

(満尾課長)

避難所の開設については、そのようなご意見も踏まえて、今年度、学校長会と協議させていただき、体育館の鍵を借りることが出来るようになった。これからはなるが、各コミュニティの自主防災会に鍵を預けさせてもらう形で進めていこうと思っている。

また城西高校につきましては鍵を市でも管理しているので、もしの場合は市の派遣職員がすぐ開けに行くようになっている。

(コミュニティ 2)

丸亀市の LINE で広報を見ることが出来るようになったが、城坤コミュニティはホームページ、さらにフェイスブックを開設して周知徹底をしている。まだまだ認知度は低いですが、多い時で 20 名ぐらいが「いいね」をしてくれる。さらに具体的に閲覧者数を見ても、多い時に 200~300 名、平均 70~80 名がフェイスブックを閲覧してくれている。城坤コミュニティでは会報をフェイスブックに載せており、コミュニティに行かなくても大体の動きがわかるようになっている。宣伝をお願いしたい。

冒頭、自治会の専門相談窓口を市役所の中に設けてもらいたいという話をしたが、市の LINE の相談窓口の中に自治会の相談という項目はない。専門の窓口をつくって LINE でも宣伝してほしいので、協力をお願いする。

もう 1 つは青パトとお出かけ便の運転について。お出かけ便については私も 75 歳以上で事故を起こしたら問題になってしまうので辞退をしたが、ボランティアだけでやっていく形は限界に達しているのではないと思う。そのほか、私の自治会では農業水路の井手ざらいを農家の方が行っているが、高齢化により年 1 回しかできない。今年の 10 月には農業水路の除草も行った。野焼きになれば問題が起こると思うので、市でゴミ袋を無料配布していることやクリーンセンターでゴミとして受け付けているということを宣伝してもらいたい。

(塩田課長)

丸亀市の公式 LINE については今後、利用促進と登録者数を増やしていく取り組みを考えてお

り、来年度以降コミュニティの公式LINEとの連携についても視野に入れながら色々と検討していきたいと思っている。

(コミュニティ 3)

城坤校区は平成16年に市街化調整区域を外れて以降、団地がたくさんできている。農家の人は田んぼを手放し、今後農業政策はどうなるのかと思う。特に今津・津森の辺りは団地がすごく、それも小さい団地ではない。辛うじて金倉の松浦さんが頑張って生産組合を作って田んぼを預かっているが、本当にこのままほっといたら田んぼは無くなってしまう。私も農家出身として心配している。市街化調整区域については今から何ともならないと思うが、今後対策をやっていくつもりはあるのかないのかを知りたい。

(市長)

私が市長になって、土地改良の地元負担率を条例で半分にした。農業関係の土地改良事業は前倒しでどんどんやっていくということで、積み残しがあったものを1年で全部やっていこうと進めている。

日本は食料自給率が37%。先進国でそのようなところはない。他は80%以上。もしもの時は食べ物がないと絶対に駄目。アメリカなどではものすごい補助を国がやっている。私が小さかった頃は国がそれをやっていたが、今は全くない。その部分について、私は国にすぐ陳情に行った。丸亀の農業の実態を全部報告して、国として取り組まなければいけないという話をしたが、言わなくても官僚の人たちはきちっと分かっている。分かっているながら全体的な政策として農作物を輸入した方が安いからと効率ばかり追いかけるというふうになっている。農林水産省の官僚の人も、これを何とか変えなければならぬと思っているが、なかなかそれはそうならない。

私としては丸亀市独自の農業支援として、水田には反あたり1万円の支給を2年連続で行い、その他肥料関係の補助、一定期間ではあるが、燃料代については漁業にも出した。

農業は第一次産業の根本的なものなので、これは地方自治体であろうが、人も予算も投入するべきと考えている。まだまだ不十分ではあるが、県や国にも訴えていきたい。農業や漁業は第一次産業の基本中の基本。どの先進国も食料自給率は80%全部超えているが日本だけが37%。これは肝に銘じて取り組んでいこうと思っている。国にもしっかり申し上げていくので、ご支援よろしく願います。

(コミュニティ 3)

2、3日前にテレビで、日本では後継者がいなくなり、米が作れなくなってしまうのではないかと話をしていました。やはり米づくりの後継者を募る方法を考えていかないと、日本からお米がなくなったら、もう日本人は生きていけないのではないかと感じている。私は友達からお米を買っているが、来年から辞めると話している。そのような話を色々なところで聞くので、米づくりをする人が少なくなっていることを危惧している。

(市長)

担い手づくりについては、色々な方面で取り組んでいこうとしているところである。ただ、本当にどんどん減ってきていて、これは米を作っても利益が出ないからである。国が補助するのが当たり前だと思っているが、してくれていないのが現実。

今若い人で農業に取り組む人が丸亀でも結構いらっしゃるが、アスパラや菜花など米以外がほとんど。ただ、若い人たちに話を聞くと、水田は農業の王道と考えているので、将来的はそこまで持っていきたいみたいなことは聞く。お米が一番利益が出ないという部分は、改善できるように取り組んでいこうと思っている。

(会長)

今日は色々なテーマがあったが、防災を中心に話ができ、そこから農業問題に発展した。根本的な解決策と個別の細かい具体的な改善策をうまく組み合わせてやってほしいというのが大体の意見。具体的に言うと、西汐入川の一番の解決策は海と西汐入川の境にポンプを置くことであり、これをしないと細かい点は解決しないので国や県とか関係なく本気で取り組んでほしいと思っている。これをすれば、西汐入川の細かい水害については解決するような気がする。満潮時での大雨の際、西汐入川の水を減らすとなったら、海との境にポンプを付けるしかない。根本的なところの解決を最優先していただきたい。

最後に、今日全体的にどういうことを感じたのかお聞きしたい。

(市長)

今日の話の中心は安心安全なまちづくり。特にやはり西汐入川を中心とした水害についてだったかと思う。私は冒頭にもお話したとおり、幸町の市営住宅に10歳まで住んでおり、台風大雨が来るたびに洪水による床下浸水を味わってきた経験者の1人なので、本当に取り組んでいこうと考えている。ただ、今日お話のあった海への排水については、正直私は全然考えていなかったが、根本的にはそのとおりであり、西汐入川をかき上げして、ほかのところからどんどん水を入れたところで、西汐入川の水位をきちんとしなければ本当の解決にはならないことがしっかり頭に入った。

会長からは国や県とか関係なく、やったらいいじゃないかというご意見もありましたが、それぐらいの気概を持って安心安全なまちづくりをしようと思う。私の母親は塩屋町出身で、小さい頃この地域ですっと遊んでおり、西汐入川も遊んでいたところなので、私なりの思いがある。皆さんのご指導をいただきながら前へ進めていきたいと思うので、今後どうぞよろしくお願いする。